新・向山洋一
実物資料集

第 1 巻

実録「学校の教育課程」を
どのように設計していくのか

サンプル版

ver.20210726

※本ファイルはサンプル版です、実際刊行されるものと内容・仕様等が異なる場合がありますことを予めご了承ください。
※図版等の解像度は、インターネットを通した画面表示に最適化した低解像度のものです。実際の印刷物は高解像度の図版を使用して印刷いたします。

教育技術研究所

新・向山洋一実物資料集 第 1 巻　目 次

はじめに　向山洋一 …… 1
解　　説　教育課程を構想するために必要なこと　谷　和樹 …… 6

1. 実録「学校の教育課程」をどのように設計していくのか …… 7
（1）昭和 55 年度教育課程編成の特徴メモ　1980.1.26　向山（36 歳）…… 8
解説コラム 1　教務主任としての仕事の始め方 ～大きな枠組みでとらえる～ …… 10
（2）大塚の「教育目標」設定の経過報告 …… 11
① 学校の教育目標の設定について ―小学校指導書（文部省）より― …… 12
② ＜資料＞教育目標をどう考えるか …… 14
③ 教育目標設定構造図 …… 16
④ 昭和 54 年度東京都・大田区教育委員会の教育目標 …… 18
解説コラム 2 「学校の教育目標」をどのようにつくるのか …… 20
⑤「現在の学校教育についてどう思うか」本校 PTA 会員からの意見 …… 22
⑥「教育に対する親の意識調査」東京の教育第 59 号 …… 24
⑦ 本校教師よりみた児童の実態 …… 26
⑧ 本校児童の特徴まとめ ～教師のアンケートより～ …… 36
（3）学校の教育目標例 1979 …… 38
解説コラム 3　教育目標とは「地域・児童等の実態」を反映する …… 40
（4）「教育計画」（冊子）の編成について …… 41
（5）昭和 60 年度 教育課程の編成について …… 44
（6）教育課程アンケート印刷 分担 …… 46
（7）教育課程審議日程 …… 48
解説コラム 4　優秀な教務主任こそ教育課程を編成できる …… 50
（8）昭和 59 年度の「大塚の教育計画作成」について …… 51
①「59 年度教育課程についての意見・提案」記入の手引き …… 51
② 教育課程についての意見・提案（記入用紙）…… 52
③ 実際の意見・提案が記入されたもの …… 58
解説コラム 5　年度末の「学校評価」をどのように活かすのか …… 70
（9）学校運営組織と校務分掌表 …… 72
① 59 年度手書き版 …… 72
② 60 年度版のための下書き …… 74
解説コラム 6　真に使える「校務分掌表」の条件 …… 76
（10）授業時数計算の問題点等（教務主任提案） …… 78
（11）行事時数表 …… 80
解説コラム 7 「時数」の「計算」と「意味づけ」は教務主任の基本的な力 …… 86
（12）学年末・学年始めの日程について …… 87
解説コラム 8　毎日の動きは教務主任が組み立てる …… 90
（13）予算についての確認 …… 91
解説コラム 9　予算は学校の研究と関連する …… 92

2. 教務主任として「企画委員会」を仕切る …… 93
（1）第一回企画委員会レジュメ　4 月 …… 94
（2）第二回企画委員会レジュメ　5 月 …… 96
（3）第四回企画委員会レジュメ　7 月 …… 98
（4）第五回企画委員会レジュメ　9 月 …… 100
（5）第六回企画委員会レジュメ 10 月 …… 102
（6）第七回企画委員会レジュメ 11 月 …… 104
（7）第八回企画委員会レジュメ 12 月 …… 106
解説コラム 10　企画委員会の組み立てをどうするか …… 108

3. 学校の教育目標から「学級経営案」を導く …… 109
（1）学級経営案について 1986.4.22 向山 …… 110
（2）昭和 59 年度　学級経営案のひな形 …… 112
（3）昭和 59 年度　学級経営案　2 年 3 組　担任 向山洋一 …… 114
（4）昭和 63 年度　雪谷小学校専科経営案のひな形 …… 116
（5）昭和 60 年度　調布大塚小学校 学年経営案 …… 118
解説コラム 11　学級経営案とは学校の教育目標の強調点・留意点である …… 120

4. 子どもにとって役立つ「評価」とは …… 121
（1）6 月の学校評価等から …… 122
（2）数値による教育目標達成状況の分析① …… 124
（3）数値による教育目標達成状況の分析 ②（書き込み版） …… 126
（4）虫歯の治療について保護者へのお願い …… 128
（5）アタマジラミについて保護者へのお願い …… 129
解説コラム 12　評価は可測定的・描写的にするから生きてくる …… 130
（6）子どもの生活を探る　教育機能の変化と対応 …… 132

（7）向山学級 実態調査 …… 134
解説コラム 13　子どもの実態をとらえるとはどういうことか …… 136
（8）通知表記入例 …… 138
（9）学習指導等について …… 140
解説コラム 14　子どもがやる気になる「所見」の書き方 …… 142
(10) 自律的作用のない学校・ある学校 …… 144
①職員会議への一つの提案　向山洋一 …… 144
② 雪が谷大塚「大塚山人」より …… 146
解説コラム 15　若き教師としての知性と気概 …… 149
(11) 対談「点数だけがすべてではない……」向山洋一 ／ 波多野ミキ …… 150
解説コラム 16　通信簿につける「評定」の根底にある考え方 …… 156

5. 教務主任の保護者とのつながり方 …… 157
（1）午前授業について 〜授業時間について説明します〜 …… 158
解説コラム 17　授業時数のカウントを保護者に説明する …… 164
（2）保護者会のご案内 …… 165
（3）クラブ活動の連絡 …… 166
（4）PTA 総会にともなう午前授業のお知らせ …… 167
（5）家庭訪問実施についてのお知らせ …… 168
（6）大塚タイム使用わりあて …… 169
（7）給食用パンの一部に虫が混入していた件についてのおわび …… 170
（8）10/31 授業予定一覧 …… 172
（9）就学時健康診断のための日課及び時程の一部変更についてのお知らせ …… 174
解説コラム 18 「保護者向け案内状」作成の作法 …… 175

6. 教務主任「覚え書きメモ」 …… 177
（1）教務主任合宿のメモ …… 178
（2）1985 年のためのメモ …… 179
①重要度ランク …… 179
②反省のための数値 …… 179
③意見の処理 …… 180
④改善する根拠 …… 181
⑤善のための観点　他 …… 182
解説コラム 19　向山教務主任の覚え書きメモから「仕事の文法」を学ぶ …… 186t

7. 完全実録：向山の「教育課題」研究員研修ノート 1980.4.16 〜 …… 187
（1）研究員総会での内容 …… 189
（2）研究を進めるにあたって …… 190
（3）研究の用語を共通にする　他 …… 192
（4）教育目標はいかなる形で授業に具現化されるか …… 195
（5）基礎・基本とは何か …… 198
（6）個別化をめぐって …… 201
（7）「わかる・できる・理解する」という文末表現　他 …… 204
解説コラム 20　40 年前の「教育課題」を乗り越えることができているか …… 206
（8）教育課程 「一般編」の定義 …… 207
（9）授業に関する一単位時間の問題 …… 209
解説コラム 21　小学校の授業 1 時間はなぜ 45 分なのか …… 211
(10) 創意を生かした教育活動 …… 212
(11)「落ちこぼれ」「非行」は共通する根があるのではないか …… 214
(12) 1980 年 8 月合宿メモ …… 215
(13) 授業を成立する要件 …… 218
(14) ぎりぎりの教育内容 …… 220
解説コラム 22 「基礎・基本≒ぎりぎりの教育内容」ついての考察 …… 222
(15) 研究は限定する …… 224
(16) ぎりぎりの教育内容は何かをめぐって …… 226
(17) 授業をどう分析し、どう評価するか …… 228
(18) いい研究とは …… 232
解説コラム 23　研究はテーマを限定し、研究の枠組みを確定すること …… 236
(19) ぎりぎりの内容とその評価や仮設 …… 237
(20) 発表原稿の型 …… 239
解説コラム 24　言い訳するな、分かりやすく話せ　〜発表原稿の「いろは」〜 …… 240
(21) 論文試験の書き方（覚書き）〜K 先生への返事〜 …… 242
(22) 研究員の会合の記録 …… 248
解説コラム 25　わかりやすい論文を書くための基本的な文章作法とは …… 250

あとがき　プロ教師として「学校づくり」を設計し組み立てる力　谷　和樹 …… 251

教育課程を構想するために必要なこと

谷　和樹

プロ教師には次の２つの条件が必要である。

1　教育課程を編成する力量 2　優れた授業をする力量

２の「優れた授業」だけでも気が遠くなるほど難しい。

しかし、１の「教育課程を編成」するのはもっと難しい。控えめに言っても 10 年程度の経験ではまず無理だろう。

教育課程の編成については、これまでにも向山氏は度々語ってきた。その多くは『大塚の教育　昭和 60 年度　教育課程等』という冊子（本巻あとがきで紹介）をもとにしてセミナー等で語ったものだ。そこで語られたことのいくつかは、本巻の解説でも紹介した。

この『大塚の教育』はいわば高度に完成された「教育課程」の最高傑作である。お手本として学ぶには絶好のモデルだ。

では、どうやってそれをゼロから創り出していくのか。

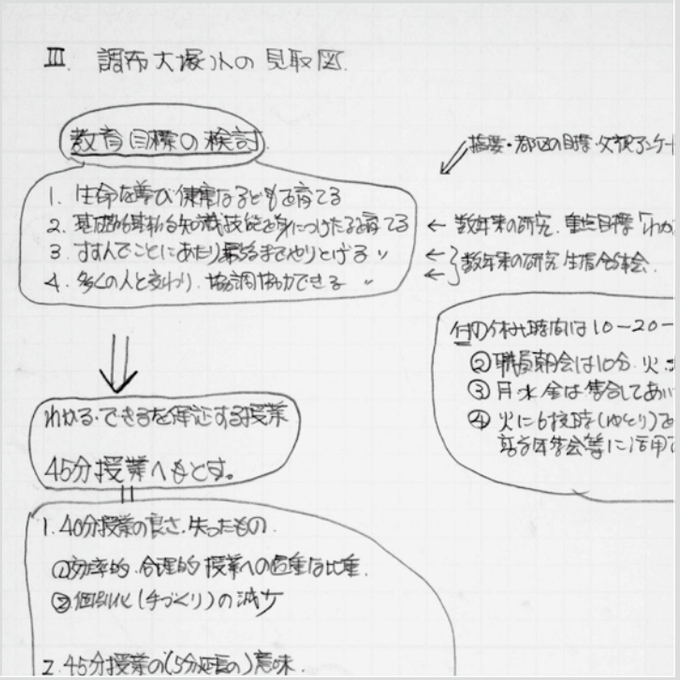
この稿を執筆している今、2021 年は「新型コロナ禍」の真っ只中だ。今後も、こうした災害や感染症等はやってくるだろう。そして、それに伴う形で社会全体の大きな変化がやってくる。いや、既に始まっている。その中で、今の時代に合った「教育課程」を私たちは構築していかなければならない。

「学校」としてぶれてはならない「不易」の部分と、最新の知見に対応していく「流行」の両方が大切だ。

向山氏のこの資料は、すべて向山氏が直接関わったものであり、多くは向山氏自身が直接その手で紙に書きつけた一次資料である。加筆修正等は一切していない。

向山洋一という巨大な実践家が教育課程について思考してきた筋道が生のままで公開されている。一文字一文字の珠玉の情報から学び、今の学校に取り入れていただきたい。

１．実録「学校の教育課程」をどのように設計していくのか



昭和55年度教育課程編成の特徴メモ 1980.1.26. 向山.

1.〈流れを変える〉 指導要領の質的変化

昭和40年 中村文相. 教育課程審議会への諮問

「…… この間における科学技術の革新に伴う時代の進展はまことにめざましいものがあります。そこでいっそうの教育内容の質的向上をはかるとともに」

1976. 初中局 奥田審議官

「これまでの教育課程は経済中心主義ともいうべきものだった。これを本当の人間づくりを目指す教育に変えようとしたのだ。」

↖多くの批判「落ちこぼれ」「学校ぎらい」

経済合理主義・効率主義

↓人間主義. 個別化 ★改善のねらい 1. 人間性豊かな…

2. ゆとりのあるしかも充実した…

3. 基礎的基本的な内容を重視するとともに児童生徒の個性や能力に応じた…

(1)項の具体化としての(2)(3)項。

II. 各校における現状（対応する事実があるか？）

A. ゆとりと充実　① 教科指導におけるゆとりと充実……

② 教科外指導におけるゆとりと充実.

- 遊び時間
- クラブ・委員会
- 集会
- 放課後遊び

B. 基礎的基本的事項の重視　① どのようにされているか？

② 一貫して追求されているか？

C. 個性や能力に応じた指導　① されているか

① されてない事実？
② その理由？
③ 解決の方向は？

III. 調布大塚小の見取図.

教育目標の検討.

↙指導・都区の目標・父親アンケート分析（一年間）

1. 生命を尊び健康な子どもを育てる
2. 基礎的基本的な知識技能を身につけた子を育てる ← 数年来の研究. 重点目標「わかる.できるを保証する授業」
3. すすんでことにあたり最後までやりとげる 〃
4. 多くの人と交わり. 協調協力できる 〃

←←数年来の研究 生活会議会.

付の休み時間は10−20−10とする

② 職員朝会は10分. 火.木.土とする
③ 月水金は集会であいさつ程度
④ 火に6校時（ゆとり）をもうけ. 作業の日. 学年集会等に活用する.

↓↓

わかる・できるを保証する授業

45分授業へもどす。

1. 40分授業の良さ. 失ったもの.

① 効率的. 合理的授業への過重な比重.
② 個別化（手づくり）の減少

2. 45分授業の（5分延長の）意味.

① 単なる5分の延長ではない。
10題のドリル ⇒ 15題にする.

② 授業の方法の大きな転換
作業. 動作を通して教える
黒板. チョークのみから具体物の教育へうつる.
多くの子が活動する授業をつくる
個別化した授業をつくる.

極論すれば. 板書の教育から手づくりの教育へ.

→ 研究テーマ（仮）の方向.

どの子にもわかる. できるを保証する授業の研究

具体的な授業方法のあれこれ

↓ 教材研究日（研究予備日）の新設
. 木曜 放課後

↓ 予算の方向.

個別化. 作業化. 動作化をしていくための用具を重点的にそろえる。

月 火 水 木 金 土
月 企画委等. 火 ゆとり. 水 職員会 研修 研究. 木 教材研究. 金 学年会.

教務主任としての仕事の始め方
～大きな枠組みでとらえる～

谷　和樹

教育課程を編成する主体は各学校である。

学習指導要領の総則にそう書いてある。校長でもなければ教育委員会でもない。学校にいる「すべての教職員」が教育課程の編成に関わるのである。

すべての教職員が勝手に意見を言っていたらまとまらない。

それらの意見をまとめ、学校の教育課程を実質的に構築していかなければならない。

その中心が、教務主任である。

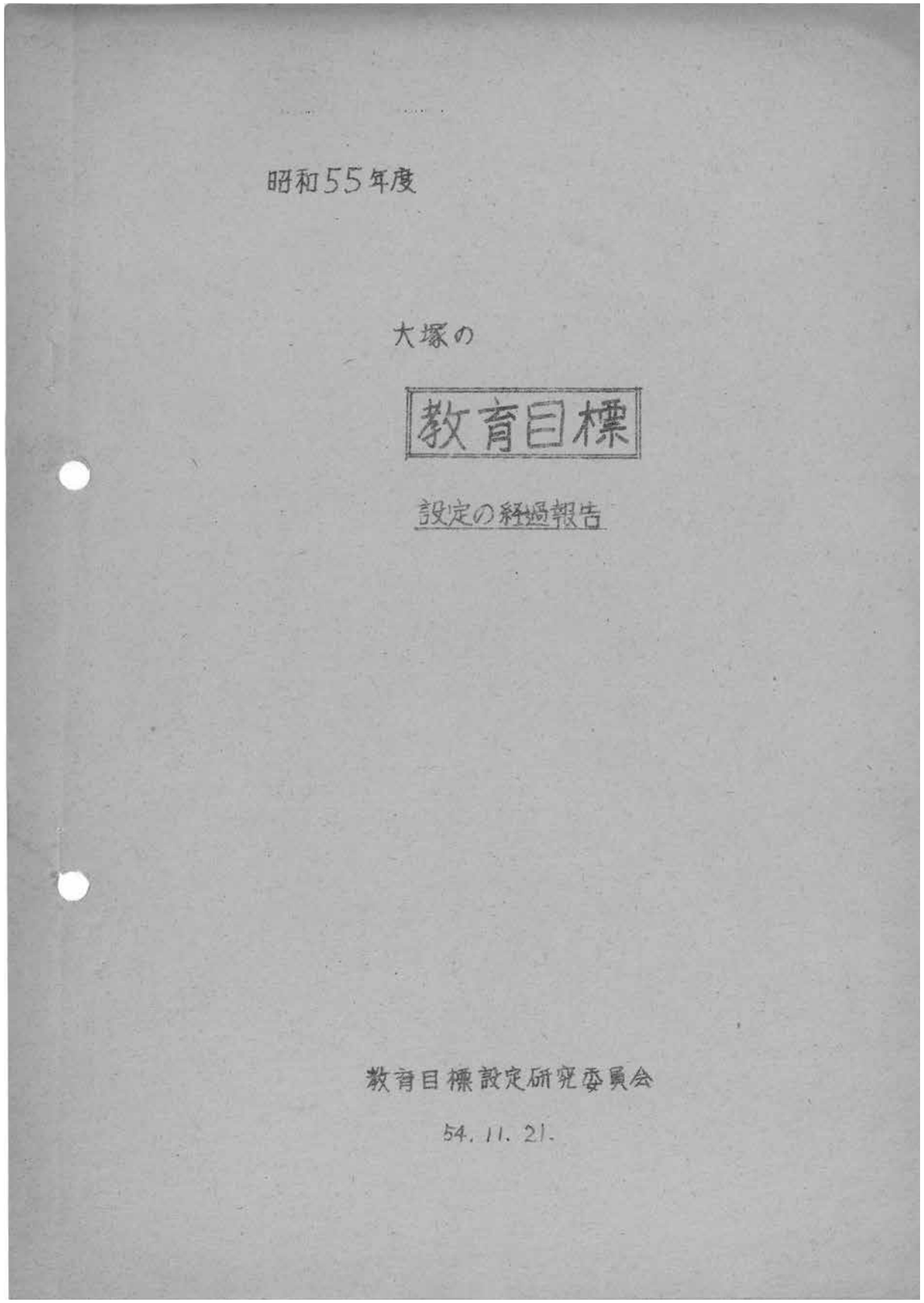
８～９ページは、1980 年に 36 歳の向山氏が書いたものだ。教務主任になる数年前から、氏が「教育課程編成」について本格的に意識していたことがわかる。

中でも次のことが特筆される。

①「指導要領の質的変化」という「日本全体」の大きな教育の流れをとらえているということ。
②「調布大塚小の見取図」として、「学校全体」の枠組みをとらえているということ。
③その見取図の中で、「教育目標の検討」から「研究テーマ」そして「予算の方向」まで、子どもの力を伸ばすという学校本来の在り方を根底から設計しようとしていること。

教務主任の方も、そうでない先生も、向山氏のこうした枠組みから多くのことが学べるだろう。

（２）大塚の「教育目標」設定の経過報告



学校の教育目標の設定について

―― 小学校指導書（文部省）より ――

学校の教育目標は 学習指導要領第1章総則第1項に示す「児童の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成する」 ためのよりどころになるものであり、学校の教育活動全体を通じて達成すべき具体的、実践的な目標である。

教育目標に具備すべき要件

1. 法律に定められた学校教育の目的や目標の達成を前提とするものであること。

教育基本法 第1条（教育の目的） 第17条 …… 略

第18条 小学校における教育については、前条の目的を実現するために 次の各号に掲げる目標の達成に努めなければならない。

一、学校内外の社会生活の経験に基き、人間相互の関係について、正しい理解と協同、自主及び自律の精神を養うこと

二、郷土及び国家の現状と伝統について、正しい理解に導き進んで国際協調の精神を養うこと。

三、日常生活に必要な衣・食・住、産業等について、基礎的な理解と技能を養うこと。

四、日常生活に必要な国語を、正しく理解し、使用する能力を養うこと。

五、日常生活に必要な数量的な関係を、正しく理解し、処理する能力を養うこと

六、日常生活における自然現象を科学的に観察し、処理する能力を養うこと

七、健康、安全で幸福な生活のために必要な習慣を養い、心身の調和的発達を図ること

八、生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸等について、基礎的な理解と技能を養うこと

したがって 各学校においては、上記の目的や目標をのすべてを調和的に達成するために、学校の実態に即して、特に強調したり留意すべき点を明らかにして、学校の教育目標を設定することが必要である。

2. 学習指導要領に示す各教科、道徳及び特別活動の目標の達成を前提とするものであること。

3. 教育委員会の規則・方針に従っていること。

4. 地域や学校の実態等に即したものであること。

その他配慮事項

(1) 校長をはじめとする教師の考えが反映されるようにすること。…… 日常の全教育活動に生かされるように配慮することが大切である。

(2) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること

(3) 価値の基準となり得るような具体性を有すること

資料　教育目標をどう考えるか　1979.6.20

1. 学校の教育目標はその学校の児童生徒育成の具体的な指標であり、教育課程編成の際の柱ともなるべきものである。　熱海則夫（文部省）
   (1) 地域性や児童生徒の実態
   (2) 具体性
   (3) 教育課程との関連

2. その学校の行う各教科等の授業の目標や内容を重点化するためのよりどころとなるものであり、教材の精選と集約、授業課程の改善を支えるものである。　木川達爾（立正大学）

3. 一般に教育課程の目標には、二つの目標論がある。板倉聖宣（国研）
   (1) 方向目標　「〜への意欲をほりおこす」
   (2) 到達目標　「〜ができる」

4. 価値目標……人間形成目標
   能力目標……態度目標
   技能目標
   知識・理解目標　[illegible]

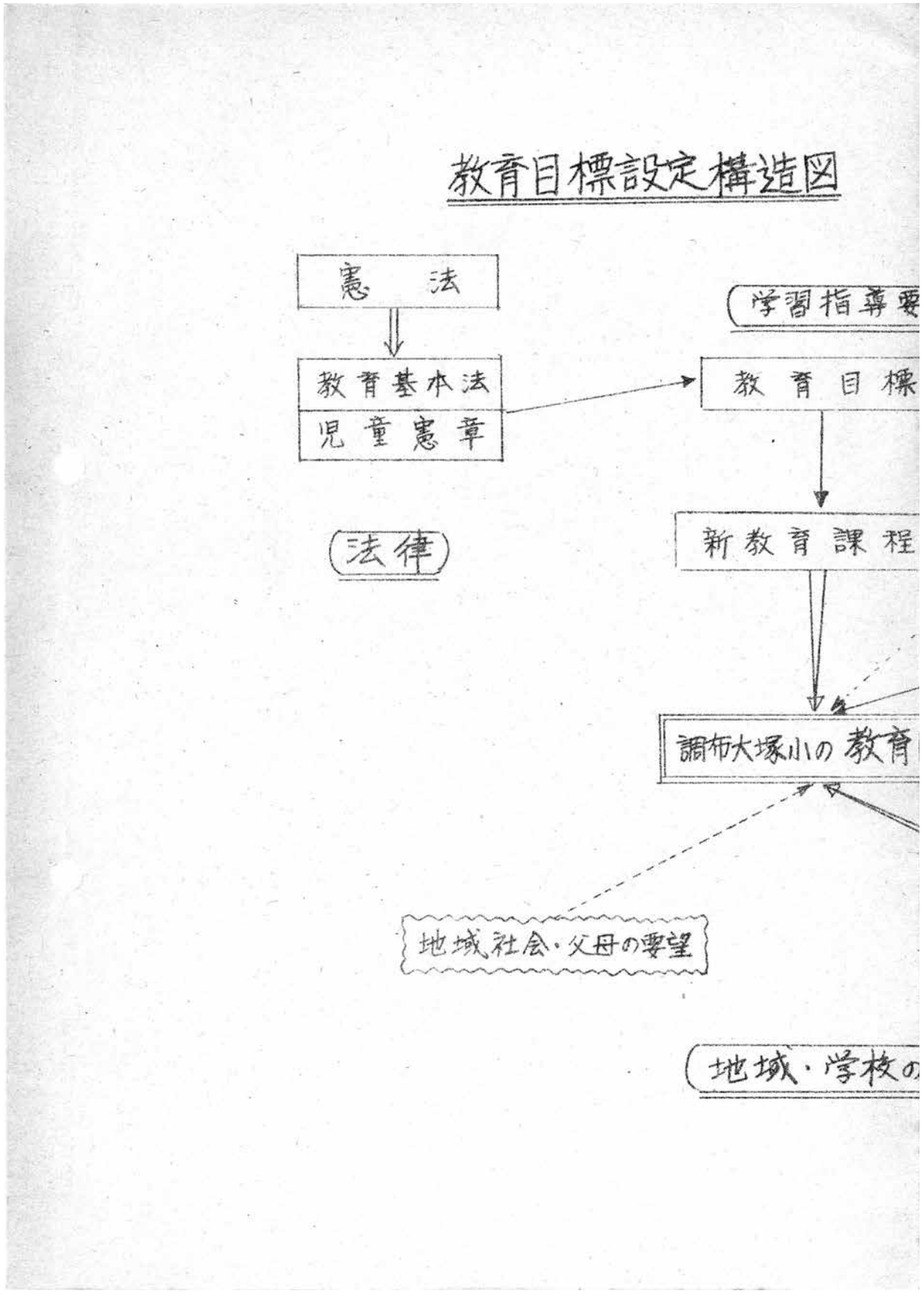
5. 教育は、児童生徒の成長発達を助成する営みである。したがって教育目標は、児童・生徒の個人的、社会的必要をよく考えて定めなければならない。　S26. 学習指導要領（試案）

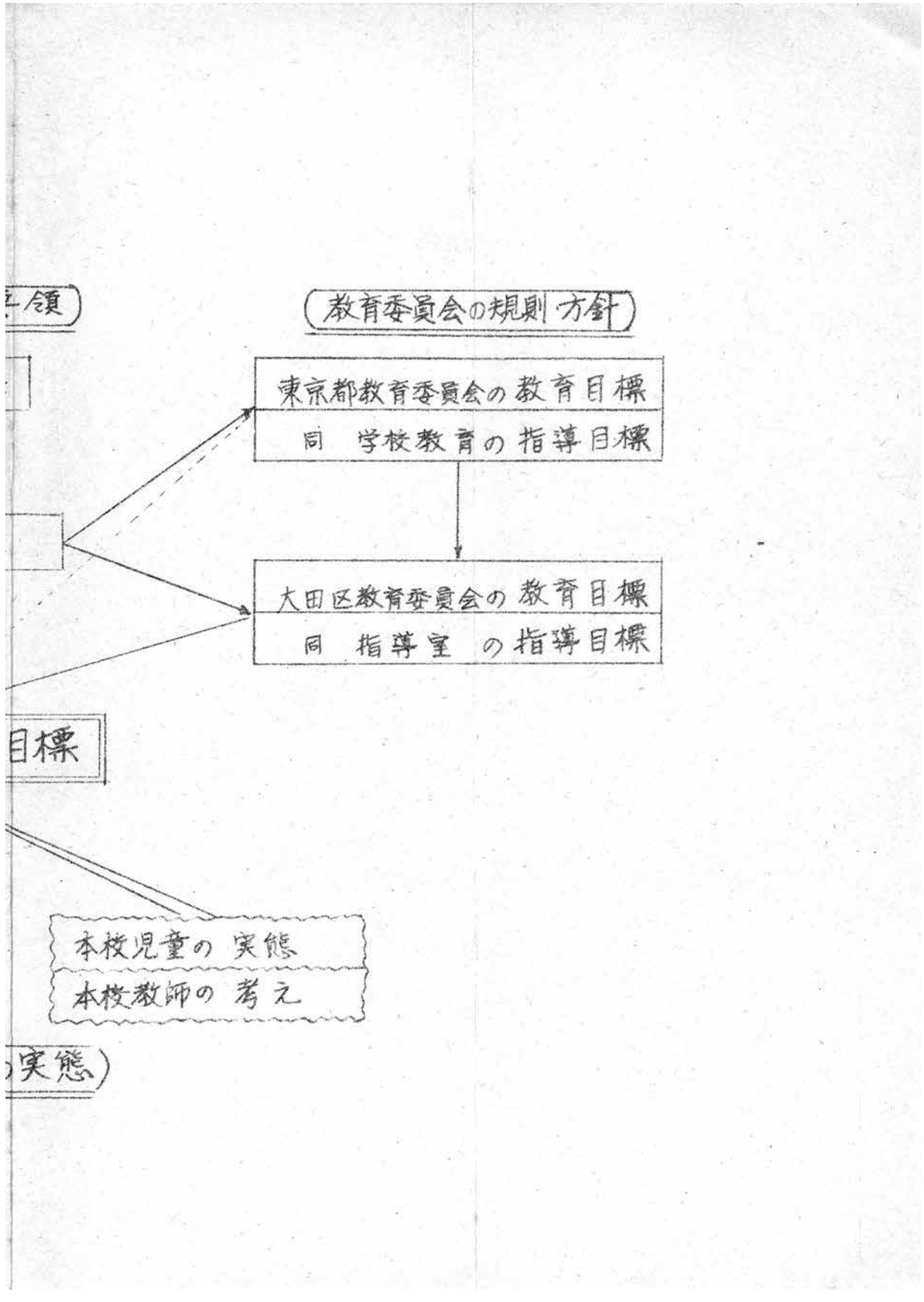
6. 学校の教育目標は、その学校の教育課程を集約したものである。

7. 教育目標論は、戦後の日本では最もおくれた分野である。
   中内敏夫（国学院大）

8. 学校は、児童・生徒の人間形成を主として意図的、計画的、組織的に行う機関である。
   学校経営の手引（都教委）

教育目標設定構造図


憲　法
教育基本法
児童憲章
法律
学習指導要
教育目標
新教育課程
調布大塚小の教育
目標
地域社会・父母の要望
地域・学校の
実態


領
教育委員会の規則 方針
東京都教育委員会の教育目標
同　学校教育の指導目標
大田区教育委員会の教育目標
同　指導室　の指導目標
本校児童の実態
本校教師の考え

昭和54年度東京都教育委員会の教育目標

人間尊重の精神を養い、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる国民的資質を高め、勤労と責任を重んじ、自主性と創造性に富み、規律正しく健康で情操豊かな都民をめざして、教育を推進する。

同 学校教育の指導目標

東京都公立学校においては、都民の期待にこたえ、未来への展望に立って、教育の本質と学校教育のあり方について深く考え、幼児・児童・生徒・学生（以下児童・生徒という）の資質・特性や、地域の実態に即して、一人一人を生かす教育を推進する。

特に、学校経営に創意工夫をこらし、教師の識見・能力を高めるとともに、児童・生徒及び父母との信頼を一層深めて、学校教育の充実に努める。

そのため、次の事項に重点をおく。

- ◆ 人権尊重の教育
- ◆ 健康・安全の教育
- ◆ 教育内容・方法の改善
- ◆ 生活指導・進路指導の充実

昭和54年度東京都大田区教育委員会の教育目標

人間尊重の精神に基づき、区民一人一人の可能性の開発と、豊かな人間性を図り、心身ともに健康で、自主性と創造性に富み、国際社会において信頼を得られる国民をめざして、教育を推進する。

同 指導室の指導目標

大田区公立学校においては、区民の期待にこたえ、将来への展望に立っての本質と学校教育のあり方について深く考え、未来に生きる幼児・児童・生一人の可能性を伸ばし、健康でたくましい実践力を養い、創造的な知性と豊間性の育成をめざし、調和と統一のある教育を推進する。

そのため、教育環境を整え、学校経営に創意工夫をこらし、教師としての高めるとともに、教職員、幼児・児童・生徒、父母相互の信頼や地域との連っそう深めて、学校教育の充実に努める。

特に、本年度は次の事項に重点をおく。

- ◆ 創意のある学校経営
  - (ア) 調和のある教育課程の編成と実施 (イ) 指導組織の整備と学年・営の工夫 (ウ) 教職員の研修活動の促進
- ◆ 人権尊重の教育
  - (ア) 道徳教育の充実 (イ) 同和教育の推進 (ウ) 心身障害教育の振興
- ◆ 健康・安全の教育
  - (ア) 体力の増強 (イ) 安全・防災指導の徹底 (ウ) 教育環境の整備
- ◆ 学習指導の充実
  - (ア) 基礎学力の充実 (イ) 教育内容・方法の改善 (ウ) 教育評価の工夫
- ◆ 生活指導の徹底
  - (ア) 基本的生活習慣の形成 (イ) 教育相談の充実 (ウ) 校外生活指導の充

「学校の教育目標※」をどのようにつくるのか

谷　和樹

学校教育目標

この「学校教育目標」という概念はない。

あるのは次の２つである。

①　学校教育の目標
②　学校の教育目標

120 ページでも関連して解説した。ここではこの２つがあるという確認に留める。各学校がつくるのは、もちろん②だ。

この 11 ～ 19 ページに示されているのは、向山氏の文章というよりは、教育目標の設定にあたって向山氏が通覧したであろう資料群と思われる。

非常に重要な内容が含まれている。

第一に、目標には評価の基準となり得るような具体性がなければならないという記述である（文科省の指導書における記述（12 ページ））。今でも「心豊かな～」といった評価不可能な目標が多い。しかし、当時から、文科省の資料にはこうした記述があったわけだ。

また、14 ページの資料も参考になる。

当時、国立教育研究所にいた板倉聖宣氏（「仮説実験授業」の提唱者）からの引用として次のことが書かれている。

①　方向目標（～への意欲をほりおこす）
②　到達目標（～ができる）

目標とは思いつきで設定するものではない。こうした基本的な要件の確認が前提である。

※向山氏によると、学校教育目標はない。あるのは、学校の教育目標と学校教育の目標である。この２つの違いを分かりやすく説明できなければ、教務・研究・生活指導などの主任をすべきではないという。